



暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。普段の生活で体を少しずつ慣らし、のどが乾いていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。

全国的に発熱、風邪のお子さまが増えています。園でも6月は体調不良でのお休みが多くみられました。症状がある際は早めの受診、お休みなどしていただきご協力ありがとうございます。何かございましたら小さいことでも構いませんのでぜひお知らせください。

♡ 6月7日に歯科検診がありました♡

検診の結果

	ひよこ組	あひる組	ペンぎん組	ねこ組	とら組	らいおん組
受診者数	5名	8名	11名	10名	11名	10名
虫歯あり	0名	0名	0名	2名	2名	1名
虫歯本数	0本	0本	0本	7本	14本	1本
永久歯本数	0本	0本	0本	0本	0本	9本

歯科検診を終えて

今年度もローレル歯科医院の相田先生が検診してくださいました。今回も虫歯が少いですね。とほめてくださいました。ほとんどのお子さまがしっかりと大きく口をあけみていただくことができました。ご家庭での仕上げみがきをしっかりとこなしていってしゃるのだな、と改めて感じます。次回歯科検診は11月頃です。

かかりつけ医がまだいない方は見つけましょう。定期的な受診することで歯の健康をチェックできますし、最初は泣いて嫌がる場合も小さいうちから通うと早めに慣れるお子さんも多いようです。小さいうちからの慣れは大事ですよ、と相田先生もおっしゃっていました。



7月の保健行事

- ・ひよこ、なかよし
身体測定・・・7/5（水）
- ・あひる、ペンぎん
身体測定・・・7/6（木）
- ・0歳児健診・・・7/11（火）



6月の健康状況

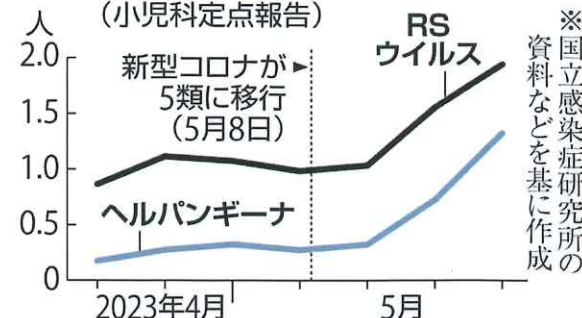
- 咳、鼻水、風邪・・・25名
- 嘔吐下痢、胃腸炎・・・9名
- 熱性けいれん・・・2名
- アデノウイルス・・・1名
- ヘルパンギーナ・・・3名
- RSウイルス・・・1名
- 咽頭結膜熱（プール熱）
・・・1名
- 溶連菌感染症・・・1名



夏風邪



子どもに流行する感染症の患者数 （小児科定点報告）



子どもの発熱、風邪症状が増えており現時点でヘルパンギーナは昨年の5倍、RSウイルスは2倍の患者数があるそうです。東京都ではヘルパンギーナが警報基準を超えています。

病気にかかることも免疫を付けていくために必要ですが、小さいお子さんなどは重症化しやすいため注意しましょう。

表 主な夏風邪の症状と特徴

	プール熱	手足口病	ヘルパンギーナ
流行時期	・夏季	・初夏～秋	・夏季
原因のウイルス	・アデノウイルス	・エンテロウイルス ・コクサッキーウイルス	
感染経路	・飛沫感染（咳やくしゃみなど） ・接触感染（タオルの共有など）		
主な症状	・発熱（38度～39度） ・喉の痛み ・結膜炎 ・腹痛 ・下痢など	・手や足、口内など全身に水疱を伴った発疹 ・発熱（37度～38度） ・喉の痛み ・食欲低下など	・急な発熱（38度以上） ・口内の水疱 ・喉の痛み ・食欲低下など
潜伏・発症期間	・潜伏 5～7日間 ・発症 3～5日間	・潜伏 3～6日間 ・発症 2～4日間	

夏のやけどに注意しましょう！！

Q.夏の滑り台の表面は何℃？
①約10℃ ②約30℃ ③約70℃
→→→答えは③約70℃

7月のよく晴れた日（気温31.0℃、湿度45%）の調査では・・・
すべり台：70.5℃ ベンチ：58.1℃ 地面：69.6℃・・・になっていたそうです。

日差しに熱せられた遊具やアスファルトは、人の体温よりもはるかに熱くなっているのです。「すべり台にのっておしりをやけどした」「転んで地面に手をついたら真っ赤になった」などたくさん事故が起こっています。熱中症対策はもちろん、夏のやけどにも注意しましょう。